

あなたの生活に文学を

阿部公彦

かつては政治といえは保守か革新。今やそんな図式は崩れま

抵抗力

そんな折、出たのが熊野純彦さんの「本居宣長(作品社)。う

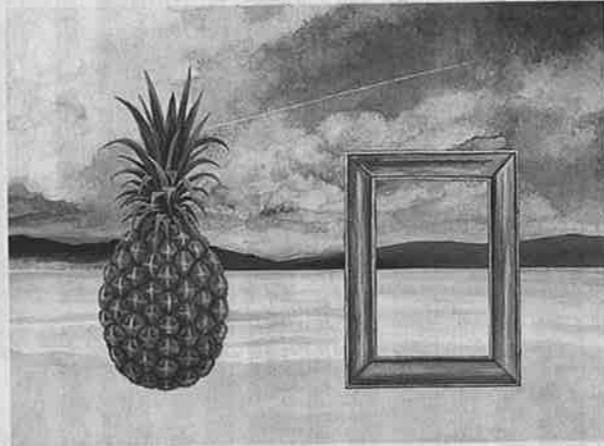
「もののはれ」通底

るうち文学と「保守」の関係を考えるヒントに出合います。

ました。しかし宣長には、熊野さんが「文献学的思想」と呼ぶ

土俗性

絵・片山高志



現代の私たちが「もののはれ」から自由ではありません。

慢性病

それに比べて、木村紅美さんの「わたしの拾った男」(「文学界」11月号)。

「湯あがりのあかちゃん」1971年

花と子どもの画家 いわさきちひろ



描き続けた「命」の象徴



「湯あがりのあかちゃん」1971年

の顔は大きく変化するとい

は首が据わって、表情も豊かになっ

に込める愛情がこの絵にはあふれている。

角川源義賞 40回角川源義部門が渡部泰和歌史論(波書店)に

黒塚古墳発掘報告書完成

奈良・橿原考古学研究所 邪馬台国の女王・卑弥呼



調査報告などをまとめた「黒塚古墳の研究」

甲冑に鹿の毛皮

出土した鉄製の甲冑に鹿の毛皮が用いられた

角川源義賞 40回角川源義部門が渡部泰和歌史論(波書店)に

仙文学者自宅、記念館に

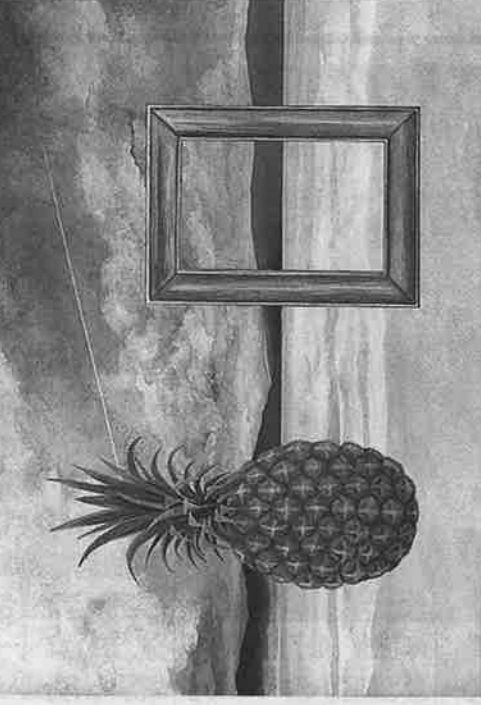


の座敷



鉄筋コンクリート造りの書斎外觀

など、1万冊を超える蔵書があり、愛用の机と椅子を囲む書棚に収められていた。自らがデザインしたステンドグラス



絵・片山高志

小さな屈折や驚き 書き手の理解超え

三国美千子

日上 秀之

それに比べて、木村紅美さんの「わたしの拾った男」

重い小説です。器用でもない。でもこの書き手は物語の動かし方を知っている。私は思いました。すつ嗚狂な脇役をうまくからめ、生硬に思えた思

でも、このモザイク状の葛藤の集積には、懐かしい「文学の香り」も漂う。その回には「ものあはれ」の感性。自分はこの苦しみや圧迫を、やや安心しながら読んでいたのでないか、とふふ気になりました。

日上秀之さんの「はんぐくすもの」(「文芸」冬号)は、震災の「その後」がテーマ。仮設店舗で産売を再開した穀の日常を、身切数メートルの距離感で描きます。どんよりと重い慢性病のような現実の中で、復強迫に襲われる穀。誇大な妄想にも取りつかれている。

視点人物の奈々子やその家族を抑えつづる、さまざまの抑圧は強いテーマ。そこには現代的な切迫感や解放の予感もある。

しかし、新人賞選考委員の田中慎弥さんによる「物足りない」という指摘も印象に残りました。たしかに

一人の人物に感情移入し、サツと逃走しながらめりこむ書法はゆるぎありません。それぞれの描写や発言に小さな屈折や驚きがあり、あ、この人はどういう人だったのか、と、いよいよはとさせる。ぎくしゃくとした読み心地ですが、そこがいい。

現代の私たちが「ものあはれ」から自由ではありません。今月の作品に圧倒的な技量をみせつけたのは新潮新人賞を受賞した三国

もきました。古き良き日本の中核に「ものあはれ」の美意識を見た信長。その思想は理よりも自然なや情緒に重きを置くだけに、特有の政治性や復古主義とも結びつきました。しかし信長には、熊野さんが「文藝的思想」と呼ぶ強しな知の力もあった。それは政治に対する潜在的な抵抗力ともなりえるでしょう。

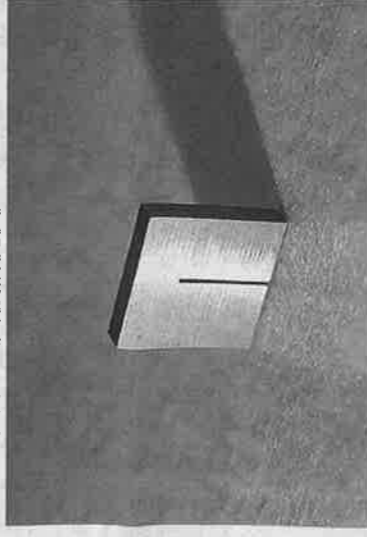
原稿用紙180枚の中編ですが、読むのにとても時間がかる。なぜならこの作品の持ち味は、各人物固有のオーラを、他者とのつかり合いを通して反射的にとらえていく手法にあるからです。

ありえない展開なのに、なぜか釣込まれる作品です。妙な静けさ。純度の高さ。外から何かが侵入する気持悪さと快感の混合。ここにも共同体的なメランコリー(憂鬱)の拘束感はある。問題は、祥江がそれを知らずに内面化していること。しばしば「吐き気」を覚えるのは圧迫が内からくるからか。その根にあるのは「ものあはれ」への複雑な嫌悪かもしれません。

「文学界」11月号)。設定は対照的。祥江は独り暮らしの会社員。記憶をなくしたという見知らぬ男性が部屋に入りこみ、住み着いてしまう。祥江は警戒し恐怖し嫌悪感を催しつつも、この男に食事を与え、ペットのように飼い、やがて添い寝を求めようになる。

祥江さんの「いかれごと」(「新潮」11月号)。幼い少女の目を通し、関西のある地方の大家族を、土着性たづぶりに閉塞感とともに描き出します。

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)などが開発した熱電変換素子(同機構提供)



新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)などが開発した熱電変換素子(同機構提供)

そのような状況の中で、注目されているのが熱電変換素子を用いた発電だ。小さな半導体の一種で、両端に温度差を生じさせると

身近なものに、ごみ焼却炉の排熱を利用した温水プールや冷暖房がある。また、最新のガスタービン複合発電では、排熱を利用して蒸気タービンを回して発電し、効率を通常の約40%から50%以上に上げています。

2018年の夏は記録的な猛暑だった。気象の影響だけでなく、都市部では人間の活動による排熱の影響も大きい。化石燃料を1次エネルギーの約6割が排熱として環境中に捨てられているという。そこでこの排熱を有効利用しようという研究が進められている。

見聞録

白鳥 敬

排熱を電力に変える技術

熱電変換素子は、200〜800℃の範囲で稼働するものが多いが、日常的な室温の変化で電力を起したり、肌に貼りつけて体温によって発電したりするものも研究されている。

これらはずいぶん電力しか起こせないが、小さなIoT(モノのインターネット)機器を動かすには十分だ。熱電変換技術はあらゆるモノにセンサーが搭載され、つながる時代のキーテクノロジーと言えそうだ。(サイエンスライター)

熱電変換素子にはどのようなメリットがあるのか。まず、可動部がなく故障が少ない。小さく、素早く発電できるので、さまざまな所に実装し活用できる。

例えば、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)などが開発した素子では、ガスこんろの炎の周囲に取り付け、調理しながら電力を取り出せるような使い方も検討されている。

現在、産業技術総合研究所などの研究機関・大学・企業が開発にしのぎを削っている。一部はすでに実用化されているが、本格的普及のためには、高価な希少金属を使わず、15%程度の高い変換効率と低コストの実現が求められる。

発電する「ゼーベック効果」を利用したものだ。今のところ、出力は小さく、エネルギー変換効率は10%程度だ。温度差を大きくし、熱が伝わりにくい材質の素子を使用した方が、生み出す電力は多くなる。

弁から憂鬱を染みこみ「奇想」を生む。もよんだ現実がひらりと別の顔を見せるので、自ら

我儘して文章をつらねた。分が言えないことを作品に後、共同体の重い気分の向かい合わせ。どんな作家も夢に、書き手の理解を超えて、なるとしよう。(芥米文学者)

かつては政治といえは保守か革新。今やそんな図式は崩れましたが、「保守とは何か」が問われる機会もむしろ増えました。本欄も「生活をタイトルに掲げる」だけに、継続や安定といったテーマは気になります。そんな折、出たのが熊野

「ものをあはれ」はもはや一つのジャンルです。その跡をたどると、さまざま言語論の位置や、保守の対立図式も浮かび上がります。熊野さんは前半の「外篇」(400ページ近くある)でその系譜を辛抱強く確認。後半の「内篇」では信長の文藝読みのプロセスを推し進めようとして読解を行います。読みが読みを生む喜びの連鎖にはエロスがある。愛の痕線と言つてもいいでしょう。でも、文学を読むという作業を通して私たちは「理」の目を培って

あなたの生活に文学を

10月 阿部 公彦

【第二譜】(図は6四銀まで)

Shogi board diagram showing pieces (King, Queen, Rook, Bishop, Knight, Pawn) on a 9x9 grid.

(指し終わり局面)

棋王戦

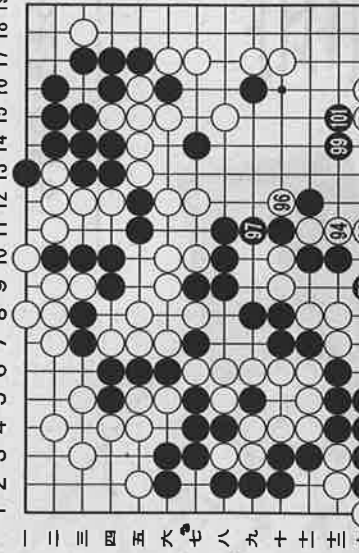
戦 戦 局 先 六
本 2 第 7 八

【第四十四期】



五将

梅野



白70に黒81は居る

許は白4と黒陣の模様八段、く打ら込んだ。

【第九譜】坂井泰至八段によれば、この時点で白は70目以上の地が確定しているという。黒とすれば、下辺を丸々地にしなないと勝負に持ち込めないというところである。

勝利の決め手

消費 白3時間59分 黒3時間59分

持たし時間各4時間

碁聖戦

五番勝負

第3局 (164-202)

白 十
黒 真